

第1回特別研修会 / CISJ

インプラント治療はチームアプローチ ～インプラント治療の現状と未来～

講師：林 美穂（歯科医師），延田万里（歯科衛生士）

日時：平成23年5月15日（日）

場所：東京ステーションコンファレンス

寒川 啓（東京都）



この度の東日本大震災で被災された皆様へ心よりお見舞い申し上げます。

平成23年5月15日、「2011年第1回CISJ特別研修会」が、東京ステーションコンファレンスにて開催された。

「インプラント治療はチームアプローチ～インプラント治療の現状と未来～」と題して、福岡県にて開業されている、林美穂先生に講演していただいた。

昨今、女性Dr.が増えてきている中、家事、子育て等で仕事を辞めてしまう方や、時間の都合でアルバイトがてら仕事をしている方が多いのが現状である。また、このことは歯科衛生士にも共通していることである。こういった方々の、仕事への完全復帰の悩みをWomen Dentists Club（WDC）を通してサポートし、そして将来的に歯科衛生士ともコラボしていきたいと熱い言葉から講演がはじまった。

今回の研修会は、歯科衛生士を対象としていることもあり、会員約30名、歯科衛生士約70名が参加した。

講演内容を私なりに、

1. チーム医療の前にまず個人を高めること
2. チーム医療
3. 臨床

の3つにまとめてみた。特に、時間を割いて語っていただいたのは、1つ目の「個人を高めること」についてである。1個人を高めるためには、以下の8つが重要と林先生は言う。

- ・ 仕事が楽しいですか？
- ・ いつも笑顔でいられていますか？
- ・ いつも他人のせいにしていないですか？



林 美穂先生



延田 万里先生

- ・ 心身ともに健康ですか？
- ・ 自立した人間ですか？
- ・ ポジティブに物事を考えていますか？
- ・ 夢や目標はありますか？
- ・ 感謝していますか？

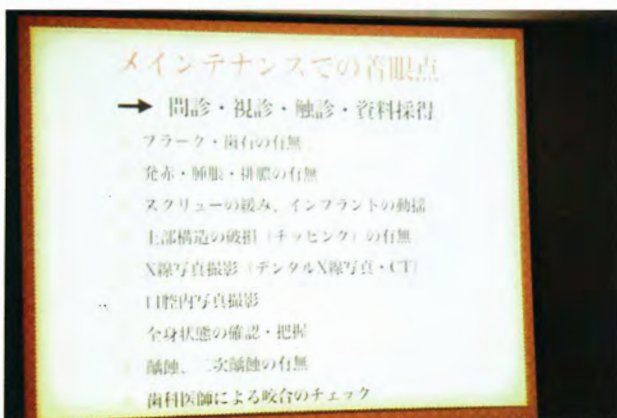
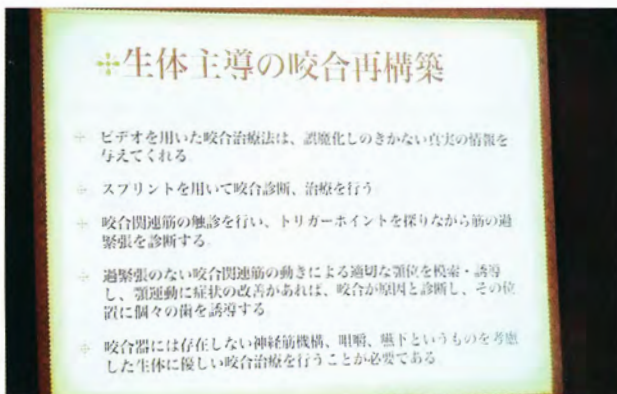
この中で、講演中よくでてきた言葉「笑顔」「ポジティブ」が、サービス≠ホスピタリティーにつながっていく。

また、『私って幸せ!!』が口癖な林先生曰く、この言葉が運を好転させるおまじないだそうだ。つまり、運が良くなるためには、

- ・ 運が良くなる言葉を使う
- ・ プラス思考を癖にする
- ・ ねたまない
- ・ 努力していれば必ず運がついてくる
- ・ ピンチをチャンスと捉える
- ・ 運は自分で掴むもの

このことを常に考えて行動する必要がある。この6つは、全て、「個人を高めるためには」に関係してくる内容である。

講演中、1冊のビジネス本の紹介がされた。「仕事



の5力」という本である。聴く力・考える力・話す力・書く力・時間力について書かれている。自身を磨くための1冊とのことで、私も定例会終了後、書店に足を向け購入した。

医療従事者である前に、人として必要な考え方を、仕事を通して、具体的な例をあげながらの講演に、会場は聞きいった様子であった。

2つ目の「チーム医療」についてだが、個人を高められれば、 $1+1>2$ というような利点が生じる。お互いの欠けた所を補い、自らの誤りを正しあえる関係が成り立つ。言い換えれば、誰かがやってくれる

と手を抜くと $1+1<2$ という欠点が生じる。つまり、チームの前に1つ目の個人が重要になってくるのである。

3つ目の「臨床」について、感性を磨かずして、良い治療はできない。「聞くだけではなく聴くこと」「見るだけでなく気づくこと」「触れるだけでなく感じることに」に努力する必要があるとのことである。また、『“本物・一流”にふれることで二流になれる』という言葉は、非常に印象深かった。

インプラント治療を含め、私たち臨床家にとって、抜歯になるか否かは非常に重要なことである。林先生は残せる歯は残すために、プロービング値を重要視している。

測定ミス→診断ミス→医療ミス→不安・不信→訴訟 につながりかねないからである。

『たかがプロービングされどプロービング!!』である。

最先端治療の1つであるインプラント治療が、訴訟の第一に挙げられているのは否めない。大学病院の大きな収入源であるインプラント科ではあるが、訴訟に対する費用も大きな出費となっているのが現状である。そんな中、林歯科では1件も訴訟はない。ひとえにスタッフ教育（ホスピタリティー）の徹底と、患者のメンタル面からのサポートした対応によるものと考えられる。

患者不在の治療はない。今後とも、患者の隠された想いを汲み取れる医療人になれるように、日々、己を磨いていきたいと痛感した。また、林先生の治療に対する情熱が、ひしひしと伝わる講演であった。